

4 本市での生物多様性に関するこれまでの取り組み

本市では、平成17年に政令市で初めて自然環境保全の基本計画である「北九州市自然環境保全基本計画」を策定しました。生物多様性基本法の制定を受け、平成22年には新たに取り組む施策などを加え、この計画を改訂する形で「北九州市生物多様性戦略」を策定し、本市の生物多様性に関する取り組みを進めてきました。

ここでは、代表的な取り組みを3件、紹介します。

1. 里地里山の持続的な利用～ 小倉南区発「日本のふるさと」推進プロジェクト

中谷地区まちづくり協議会の代表的な取り組み

(1) 特産品開発

中谷地区では自宅で漬物を漬けている家庭が多く、各家庭で工夫された漬物をまちおこしに役立てようと「漬物コンクール」を実施しています。



漬物コンクール

(2) 中谷ウォーキングinみなみ

中谷地区を歩くことで、魅力を体験してもらうとともに都市住民との交流を図っています。



中谷ウォーキングinみなみ

(3) 荒廃竹林伐採～植林活動

荒廃した竹林を伐採し、保水力の高い広葉樹の苗木の植林活動を実施しています。



荒廃竹林伐採～植林活動

2. 北九州市自然環境保全ネットワークの会(自然ネット)の取り組み

北九州市自然環境保全ネットワークの会(自然ネット)は、平成18年5月に設立され、北九州市自然環境保全基本計画や北九州市生物多様性戦略の進行管理を行っています。現在、NPO・団体35団体、市民151名、学識経験者12名、事業者13社で構成されています(平成27年4月時点)。

自然ネットでは、戦略の基本目標に対応し、自然講演会や、エコツアーなどの活動を行っています。



自然講演会



ビオトープエコツアー



自然ネットだより

3. 響灘ビオトープの開園と自然環境学習施設としての取り組み

響灘ビオトープのある響灘地区はもともとは海でした。昭和55年に廃棄物処分場として埋め立てが始まり、昭和61年に埋め立てが完了しました。

埋め立ての完了後、時間の経過とともに、そのデコボコの地形に雨水がたまることで湿地や淡水池ができ、さらには種が運ばれて草地ができるなど、いろいろな自然環境が出現しました。そして、様々な動物や植物が生息する場所になりました。



ネイチャーセンター



ベッコウトンボ



響灘ビオトープを訪れた園児たちの様子

